

役員所感

直前理事長 大嶋 賢一

昨年度は理事長という要職をお預かりしLOMの運動を牽引させていただきました。時代の変遷に伴いJCという存在に求められるものが問われる中で、昨年は各種団体や市民の皆様と地域に根付く問題改善や特長の活性に共通意識を持ち、共に運動を展開したことにより新たなJCの在り方を見出せた年であったと考えます。その経験を活かし地域にてより存在意義のある上越JCへと進化し続けるためのサポートに徹する1年といたします。

LOMの運動推進には新たな発想から生まれる青年らしい活動が必要です。その活動に支障を来す障壁があったとするならば乗り越える、回避するなど対応方法の選択が大変重要であると共に、脈々と受け継いできた上越JCらしい姿をその活動を介して示すことも欠かせません。全メンバーがそれぞれの目的を達成するべく前のみを向いて活動に邁進いただきたいという想いの上で、昨年度をはじめ私自身のJCで得た経験から活動推進における障壁に対する対応を状況に応じて示させていただくと共に「品格ある青年」で構成される当組織において様々な責任から逸脱すること無きようにLOMを鳥瞰しつつ力添えすることが直前理事長に求められることと考えます。また理事長経験から様々な要素から成るLOM運営においてどんなに目配りしても見えないもの、また見えていても立場から手を加えることや携わることが出来ない事柄が理事長職には必ずや存在します。植木理事長が思い描くビジョンを把握した上で、そのビジョンをイメージ通り描くための下支えやサポート、時には厳しい判断を示す事もやはり直前理事長の重要な役割であると考えます。

直前理事長であると共に特別会員という立場であることも肝に銘じ、かけがえの無い青年期におけるメンバーの活動の本質をしっかりと尊重した上で、その活動がより効果をもたらす明るい豊かな社会の実現への運動になり得るよう加役に徹し職務を遂行いたします。